

第3回 EST普及推進フォーラム 受賞講演①

神戸市における継続的な ESTの取り組み

～神戸の環境・交通・まちづくり～

平成22年2月17日
神戸市交通局



神戸市の概況及び交通網

平成21年10月1日現在

行政区	9区
人口	約153万人
世帯数	約67万世帯
面積	約552km ²
DID地区	人口:約140万人 面積:約147 km ²



神戸におけるESTの経緯

交通需要マネジメント(TDM)の取組

2003～ ・神戸市TDM研究会

エコモーション神戸

～2005 ・エコファミリー制度、エコショッピング制度等

KOBE PiTaPaの発行
(2005年～)

神戸都心地域でのEST実現に向けた取組

2005～ ・神戸市EST推進協議会
・神戸EST省エネルギー詳細ビジョンの策定

KOBEST2007

・KOBESTちょいのリバス
・まち歩きツアー、クイズラリー等

神戸郊外地域でのEST実現に向けた取組

2007～ ・神戸市MM推進委員会
・モビリティ・マネジメント(TFP)、バス運行実験、レンタサイクル等

そもそもきっかけは

神戸におけるTDMの目的

- ・道路の混雑緩和
- ・環境負荷の軽減

これだけではなく、

公共交通の
利用促進（休日）

さらに・・・

少子高齢化

週休2日
の浸透

目的の
多様化

都心商業
の衰退

公共交通は・・・

休日の
利用者減

小学生の
割合は1%

神戸におけるTDMの考え方、方向性、具体的取組み
について、「神戸市TDM研究会」により検討

具体的な取組み：エコモーション神戸

エコモーション神戸

神戸におけるTDMをエコモーション神戸と名付け、2003年10月～2005年9月の2年間、交通社会実験として実施。

エコファミリー制度

大人1人につき小学生以下2人まで無料に！

◆適用日

- ・土日祝日、お盆休み、年末年始に適用

◆対 象

- ・神戸市営地下鉄
- ・北神急行電鉄
- ・市バス全線、神戸交通振興山手線バス



家族連れの外出をクルマから公共交通に転換

■延べ213万人の小学生が利用

市内の小学生(約8万人)が毎月1回利用

CO2排出量
523t削減

エコモーション神戸

エコショッピング制度

地下鉄・市バス利用者が
対象店舗・施設等を利用
する際にサービスを提供。



●交通事業者

市バス・地下鉄・駅等でのPRの実施
(広告枠の空きスペースの提供)

市民等への周知

地下鉄・市バスの利用促進

●提携店舗・施設

サービス内容の提案
ポスター、チラシの作成

サービスの提供

方法を協議

地下鉄・市バス
利用での来店

クルマの削減とまちの活性化

約1万2千人が利用

エコモーション神戸で得たもの

◆交通教育・環境教育への取っ掛かり

- ・公共交通の認知、公共心の育成
- ・環境問題への入口

◆「市民の公共交通」への一歩

- ・乗客と駅員・乗務員との会話
- ・商業者と交通事業者の相互理解、連携の機運

◆「環境と交通」を巡る議論の場

◆「環境交通の先進地－神戸－」のイメージ



「EST実現に向けた取り組み」への発展

エコモーション神戸、その後

社会実験として実施した、エコファミリー制度、エコショッピング制度は、社会実験終了後も、本格運用として、継続実施！

◆エコファミリー制度

- ・2009年12月までで、延べ**670万人**が利用
- ・CO2の削減効果は、**約2500トン**
(甲子園球場の7.5倍の植林に相当)

◆エコショッピング制度

- ・2009年9月までで、延べ**472店舗・施設**が参画
- ・利用者は述べ約**2万7千人**
- ・CO2の削減効果は、**約24トン**



そして...

2010年からは、夏休みにも拡充して
エコファミリー制度を実施！

KOBESTとは？

KOBE

BEST

EST

「おしゃれな神戸らしい環境を
優先した生活」の実現
わたしが変われば、神戸は変わる！

市民、従業者、来訪者、商業者、事業者、
交通事業者、交通・道路等の管理者、
行政等が協働し、KOBESTを実現



都心部EST実現に向けた取組み

ESTモデル事業(2005年度～2007年度)

「地球環境保全」「都心の活性化」「全ての人にとっての利便性向上」といった観点から、神戸の都心地域における持続可能な交通体系(EST)を確立することを目的とし、**市民や事業者など幅広い関係者**により、**ESTのあるべき姿と目標を共有化**する。

◆検討の経緯

・学識経験者、商業者等、NPO、交通事業者、行政などにより構成された「神戸市EST推進協議会」により検討

2005年度 基本的な考え方と 基本方向

- ・歩いて楽しい魅力的な都心
- ・誰にでもやさしい公共交通
- ・クルマに依存しない仕掛け
- ・次世代の担い手の育成

2006年度 神戸EST省エネルギー 詳細ビジョンの策定

- ・重点施策の絞込み

2007年度 交通社会実験 KOBEST2007の実施

- ・重点施策をパッケージ化して社会実験を実施
- ・市民、商業者等の参画、協働

都心部EST実現に向けた取組み

神戸におけるESTの基本的な考え方と基本方向

◆基本的な考え方

神戸におけるESTは、**まちづくりと一体**となって、魅力的で活気のある**都心(強いコア)**を支える**公共交通を機能させる**ことによって実現を目指す。

◆基本方向

- ① 歩いても楽しい魅力的な都心 ～回遊空間の創出
- ② 誰にでもやさしい公共交通 ～乗換抵抗の軽減・情報提供
- ③ クルマに依存しなくてもすむ仕掛け ～かしこい役割分担
- ④ 次世代の担い手の育成 ～教育・協働・参画

長期的戦略を見据えながら
まず重点施策に集中して具体化

案内マップの整備⇒市民による歩くまちガイド等の普及・啓発⇒
乗継割引制度や自動車空間の見直しといった施策を順序立てて
展開⇒都市構造の変容に至ることによりEST実現を目指す

公共交通の利便性向上により、都心への
来訪者の増加を目指し、これを受けて歩行者
環境を改善し、都心コアの集積を進める

市民が交通とまちづくりの課題を自分の問題として捉え直し、
行動を変容させていく動きが拡大するスパイラルアップを期待

施策はパッケージとして組み合わせ、相乗効果を生み出すよう工夫

KOBEST 2007

交通社会実験(2007年度)

①歩いても楽しい魅力的な都心
～回遊空間の創出



・ワークショップ、シンポジウム、
映画上映会 & トークの開催

・ちよいのりバスと商業者との連携
(優待券による特典など)



・市民・商業者等の参画・協働による
KOBEST2007の企画、運営

④次世代の担い手の育成
～教育・協働・参画

・PiTaPa等を活用したクイズラリーによる
公共交通利用促進



・駐車場とちよいのりバス
との連携



(大倉山駐車場) (荒田駐車場)

・「ちよいのりバス」の運行



・「まち歩きマップ」の制作



・「まち歩きツアー」の開催

KOBEST2007



②誰にでもやさしい公共交通
～乗換抵抗の軽減・情報提供

・PiTaPa利用者やエコバッグ
持参者は「ちよいのりバス」を無料



・ちよいのりバスと
シティループ等との連携

・バイオガスタクシーの体験イベント



③クルマに依存しない仕掛け
～かしこい役割分担

現在の取り組み（KOBEST2009）

KOBESTまちめぐりツアーの実施

- ・まちを歩く楽しさ、歩くことで初めて気づく新たな発見や交流などの機会や体験を提供
- ・体験を通じて、まちの魅力に触れ、ESTの意義を理解する機会を広く市民に提供

市民が自ら
ガイドする！

◆まちめぐりツアー一例

- ①北野異人館街散策
- ②開港で生まれた神戸の異国情緒を歩く
- ③南米移民の道を歩く
- ④バイオガスと酒造・発酵のまち魚崎散策 など



KOBESTまちめぐりMAPの作成

- ・公共交通を活用しながら、気軽に歩いてまちをめぐするためのマップを作成
- ・裏面にEST普及啓発に関する情報を提供



現在の取り組み(KOBEST2009)

社会実験「こうべ都心めぐり2dayパス」

- 神戸の都心地域において、公共交通を気軽に乗り換えることができるシステムにより、歩くことを支援する(主に観光客が対象)

◆概要

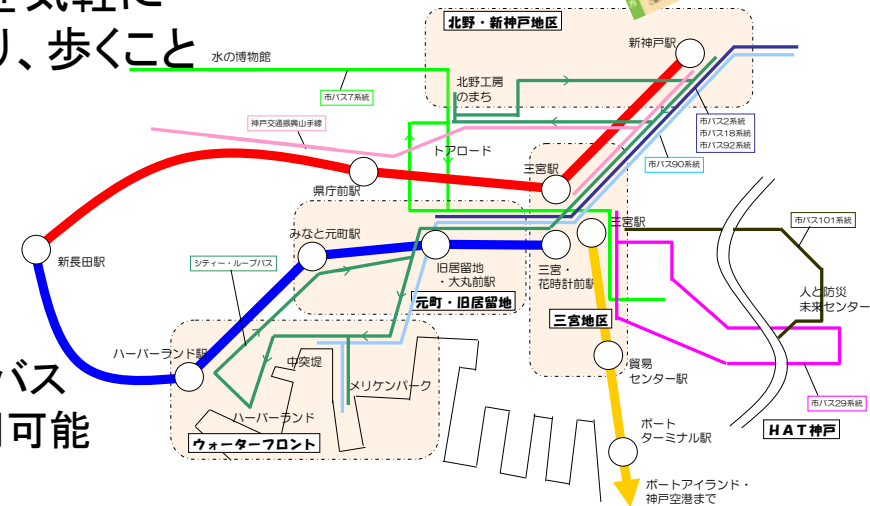
- 神戸都心部の公共交通が**連続2日間乗り放題**で、料金は**1,200円**
- 神戸市営地下鉄(山手線・海岸線)、市バスポートライナー、シティー・ループが利用可能
- 都心地域のお店や施設での優待付き

2010年1月末時点:約2700人が利用

その他

EST普及啓発ポスターの掲出

KOBEST2009シンポジウム(1月31日実施)



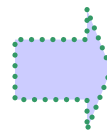
パス利用者には
「KOBESTまちめぐりMAP」
をあわせて配布

郊外部 E S T 実現に向けた取組み

平日の需要創出への挑戦

「エコファミリー制度」「エコショッピング制度」で休日における利用転換はある一定の成果を得た。しかし、交通需要の多くの占める「平日の通勤交通」へのアプローチが、できていないことに気づく。

経済的インセンティブを与えることは、失敗した場合リスク大



心理的に働きかけることでマイカー利用から転換できないか

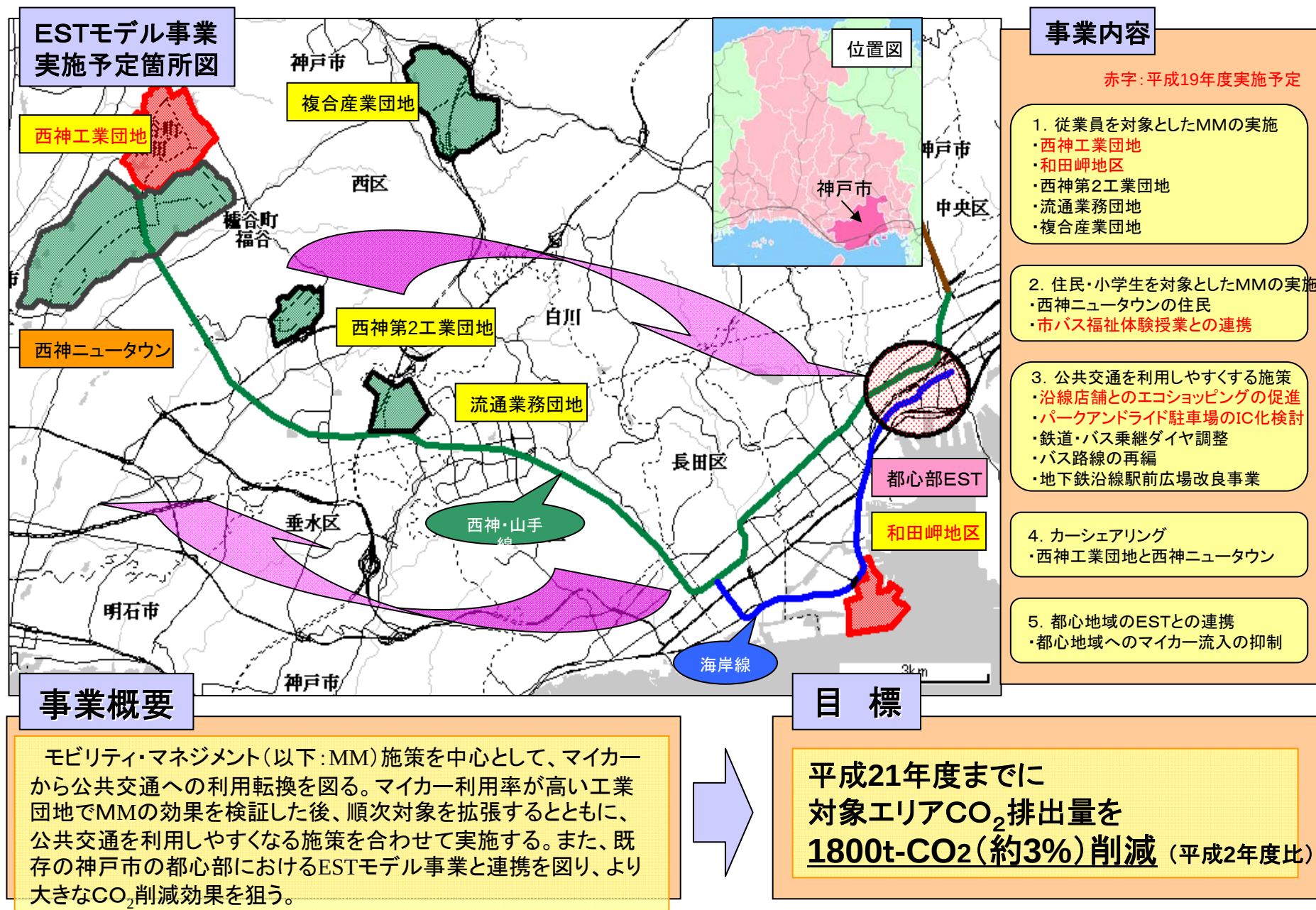
ターゲット

マイカー利用率が
高い郊外の
大規模工業団地

混雑している
都心方向とは逆向きの
需要創出

モビリティ・マネジメント
手法の活用

神戸市の都心周辺部におけるMMを中心とした持続可能な交通体系の確立



郊外部EST実現に向けた取組み

ESTモデル事業(2007年度～2009年度)

2007年度に、「神戸市MM省エネルギー詳細ビジョン策定委員会」を設置し、

「大規模工業団地におけるMMを中心とした省エネルギー詳細ビジョン」を策定

クルマに過度に依存しなくてもすむ仕掛け
～かしこい役割分担～

- 職場TFPの実施
- 企業とのミーティングの実施
- 住民TFPの実施
- 都市型レンタサイクルの導入
- カーシェアリングの検討
- 小学生を対象とした啓発活動
- エコファミリー制度のPR

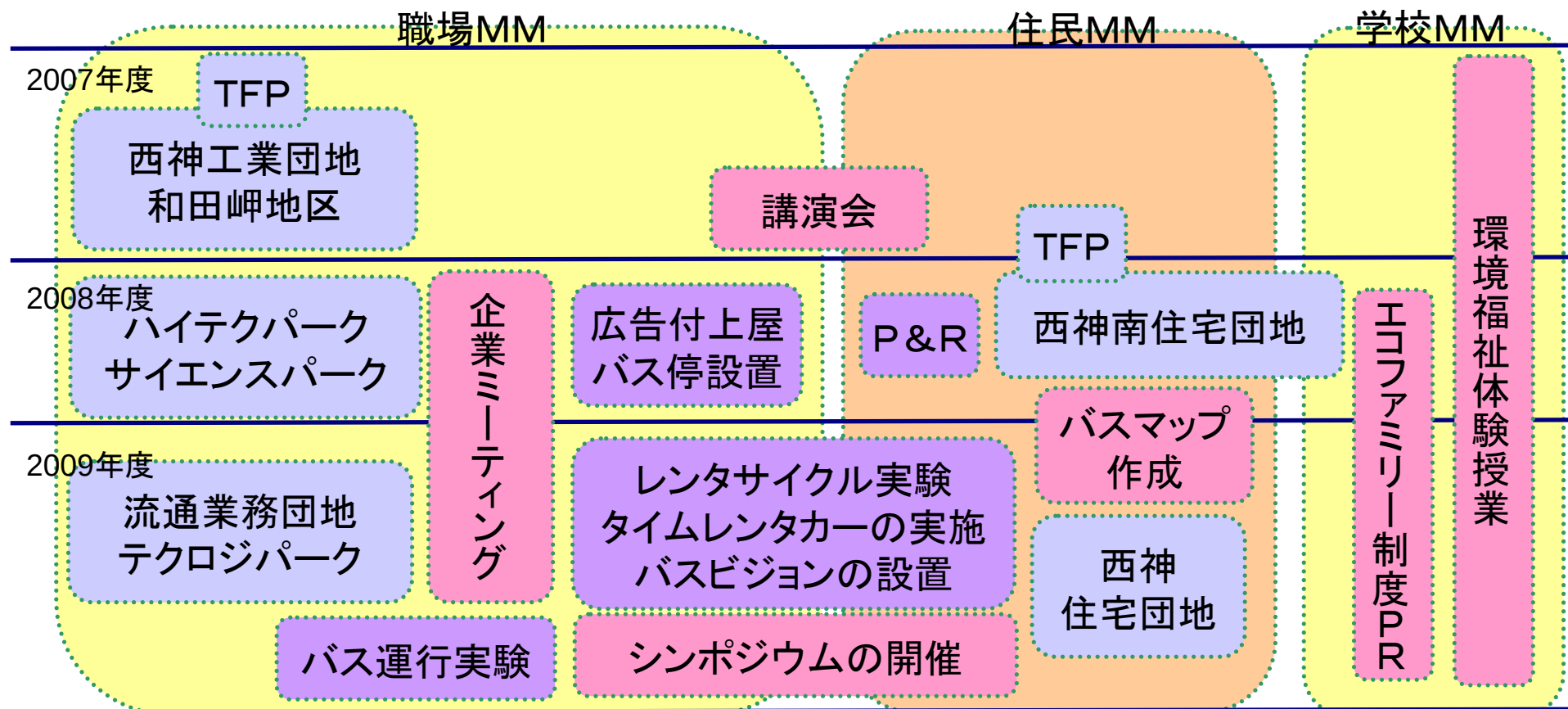
誰にでも優しい公共交通
～時代のニーズに対応したサービス向上～

- バス路線の新設・増発
- バス車両にICカードの導入
- 低公害バス車両の導入
- パーク&ライド駐車場でのICカード導入
- 広告付き上屋バス停の整備
- バスマップの作成および掲示
- 駅にバスビジョンの設置

郊外部EST実現に向けた取組み

ESTモデル事業(2007年度～2009年度)

「大規模工業団地におけるMMを中心とした省エネルギー詳細ビジョン」に基づき、各対象に対して継続的に事業を展開

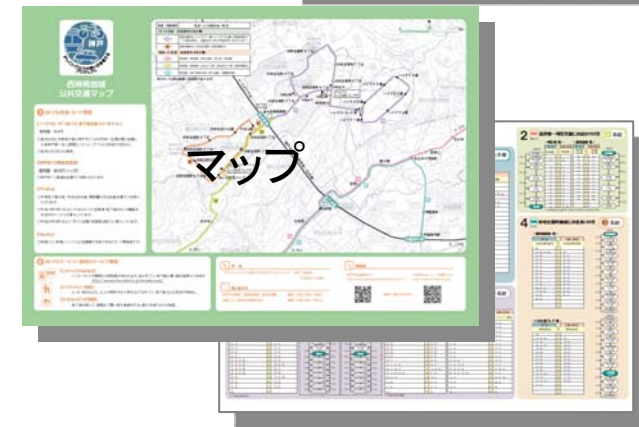
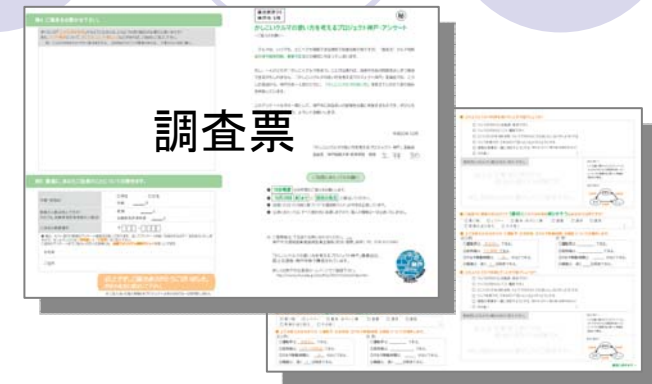


郊外部EST実現に向けた取組み

TFPの実施

職場MM	従業員数	配布数
西神工業団地	13,000	6,455
和田岬地区	12,000	6,600
ハイテクパーク	3,050	1,550
流通業務団地	6,000	830
テクノロジーパーク	2,200	830

住民MM	世帯数	配布数
西神南住宅団地	10,000	3,100
西神住宅団地	19,000	6,750



郊外部EST実現に向けた取組み

TFPの結果(一例)

西神工業団地

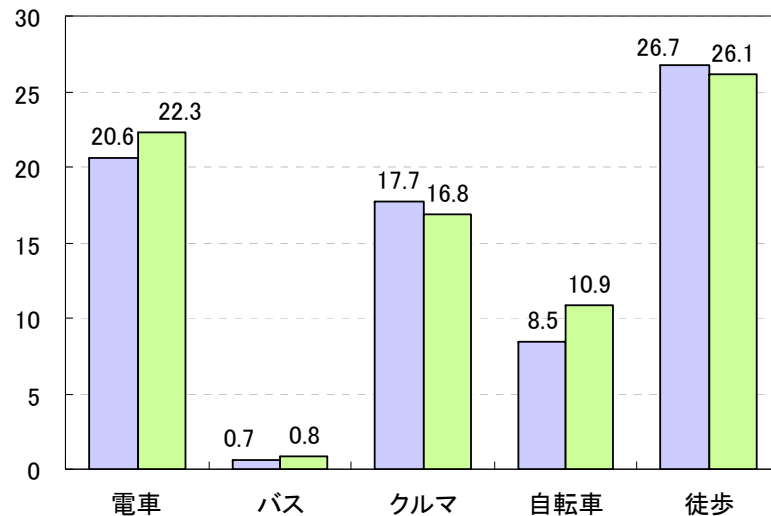
西神南住民
(平日)

交通手段別の移動時間

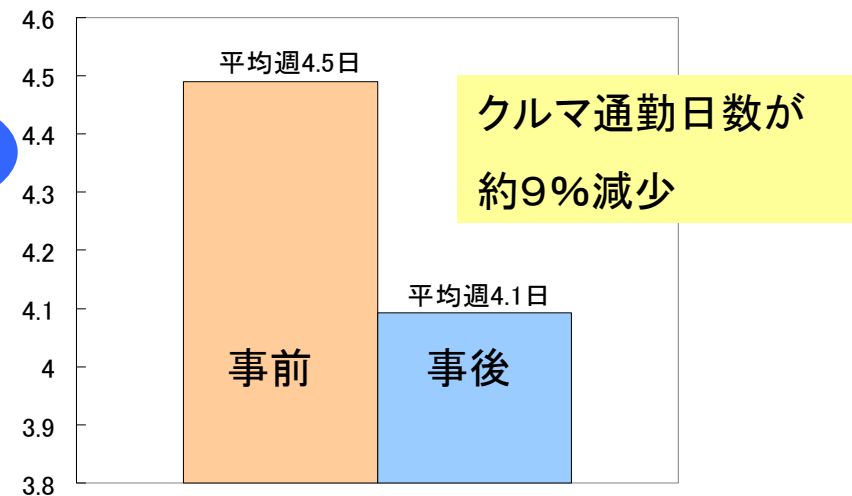
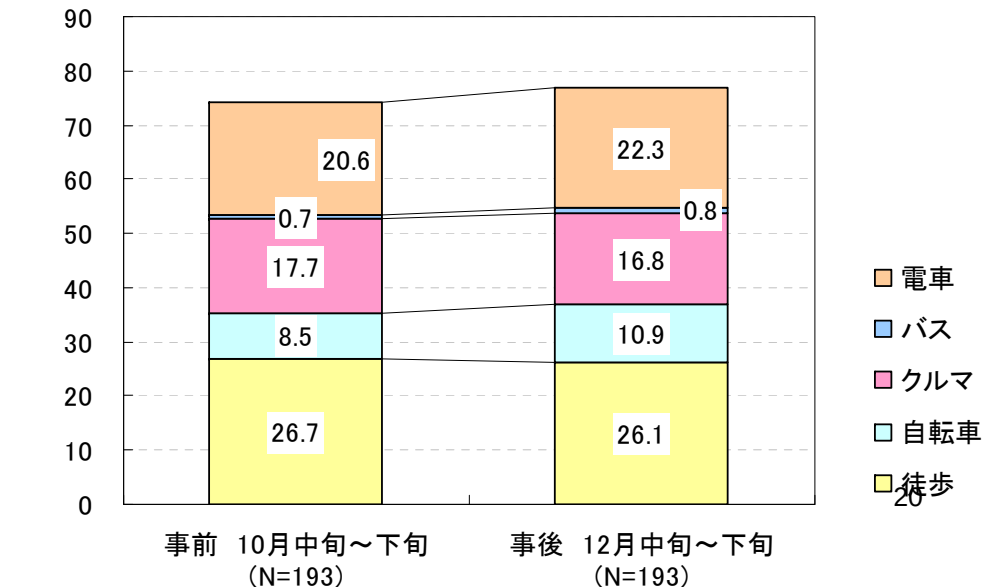
(分/日・人)

■ 事前 10月中旬～下旬 (N=193)

■ 事後 12月中旬～下旬 (N=193)



(分/日・人)

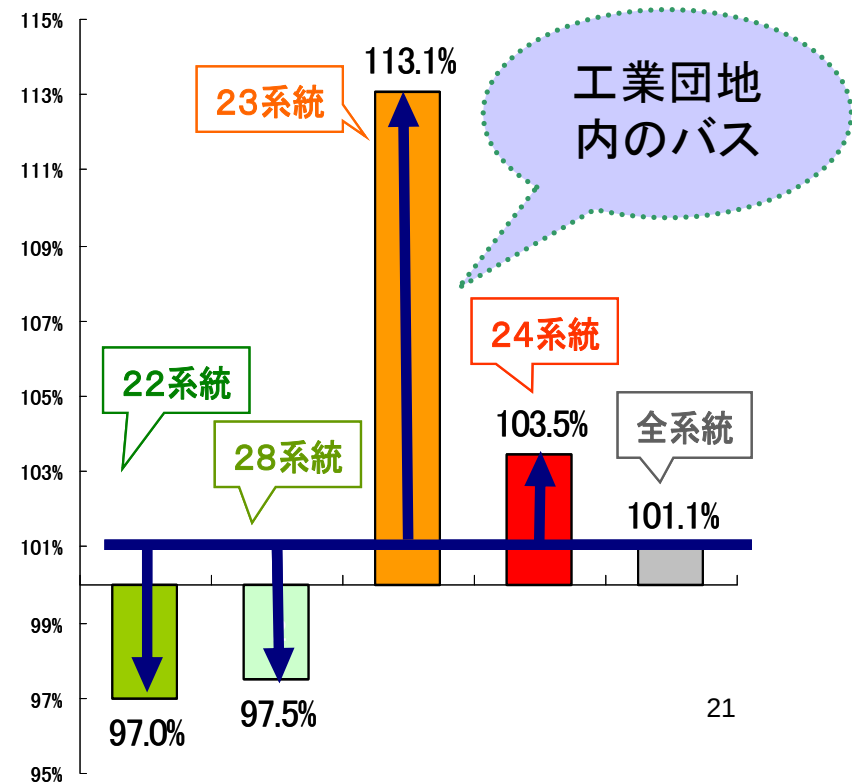
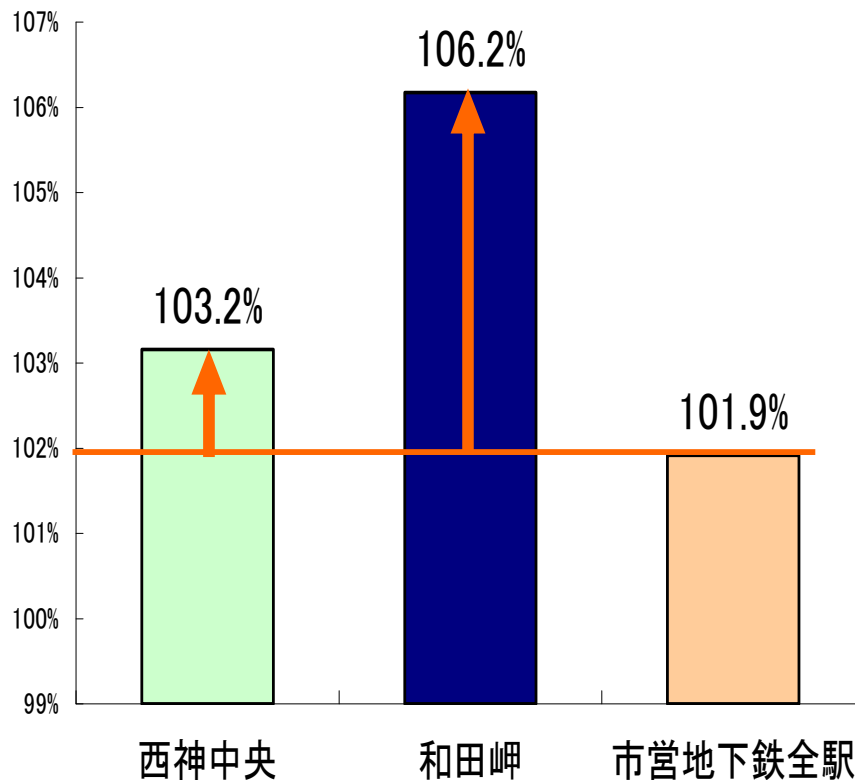


クルマ通勤日数が
約9%減少

TFPの効果

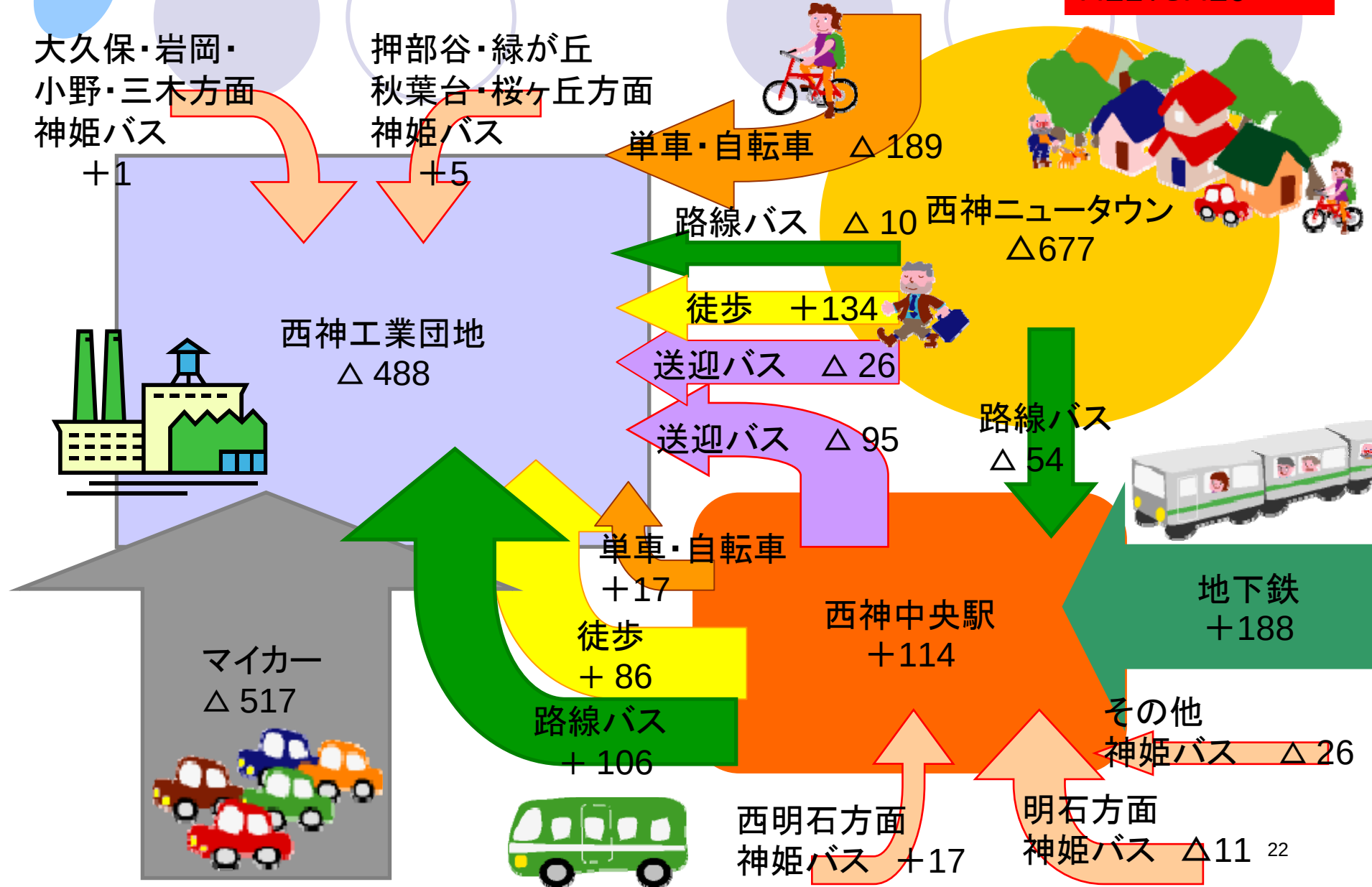
地下鉄・バスの乗客増(H19vsH20)

- H19にTFPを実施した地域では、地下鉄の通勤定期の乗車人員やバスの現金・カード収入が、市全体の平均値よりも高くなった。(対前年同月比)



西神工業団地への通勤経路と交通手段

H21vsH20



郊外部EST実現に向けた取組み

低炭素地域づくり事業 & モビリティ・サポートモデル事業

企業と連携した実験バス



循環バスの増発(西神中央駅)



直行バスの新設(神鉄木津駅)

レンタサイクル事業



貸出機器(ICカードリーダー)



レンタル車両

タイムレンタカー事業



タイムレンタカー実施店舗

モビリティサポート事業



バスビジョン設置状況

郊外部E S T実現に向けた取り組み

環境福祉体験授業(学校MM)

年間15～20校

小学校の運動場等にノンステップバスを乗り入れ、市バス運転士が講師となり、**バスの福祉に関する仕組みや、公共交通の環境に対する優しさ等**について授業をする

内 容(授業時間3時間程度)

- ・外観の説明(低床、ニーリング、ドア幅、スロープ板、タイヤの大きさなど)
- ・内装の説明(手摺・床・シートの色、車いす設置など)
- ・車いすによる乗車体験
- ・老人福祉体験装具を装着しての乗降体験
- ・視覚障害者擬似体験眼鏡を装着しての体験
- ・環境紙芝居による地球温暖化のお話

DVD、環境紙芝居等教材の作成



今後に向けて

バス・地下鉄を運行している交通事業者にとって、最大のCO2削減策は何か？

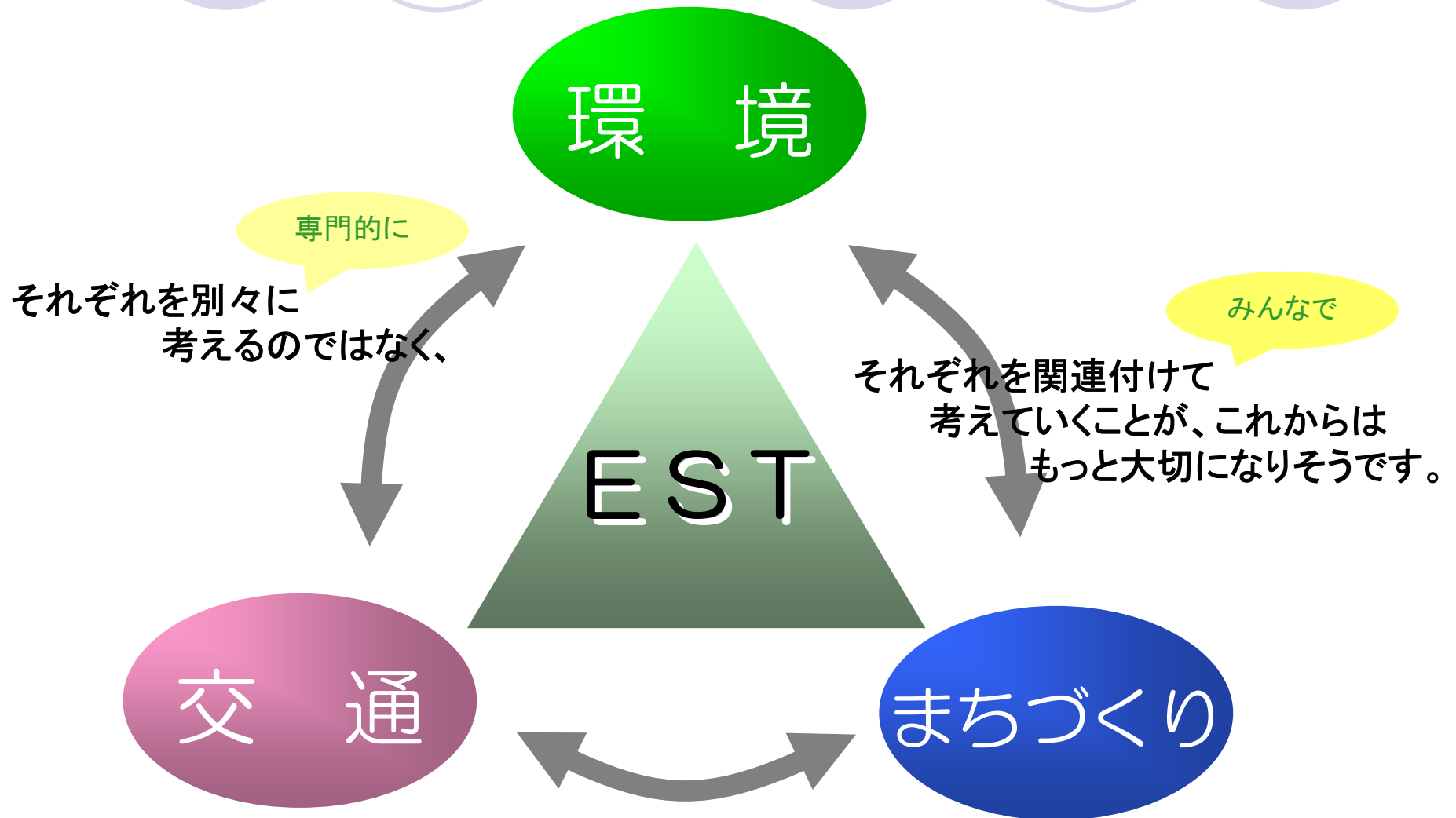
- ・低公害バス車両の導入
- ・アイドリングストップ等のエコドライブ
- ・駅・車両の省エネ化等...

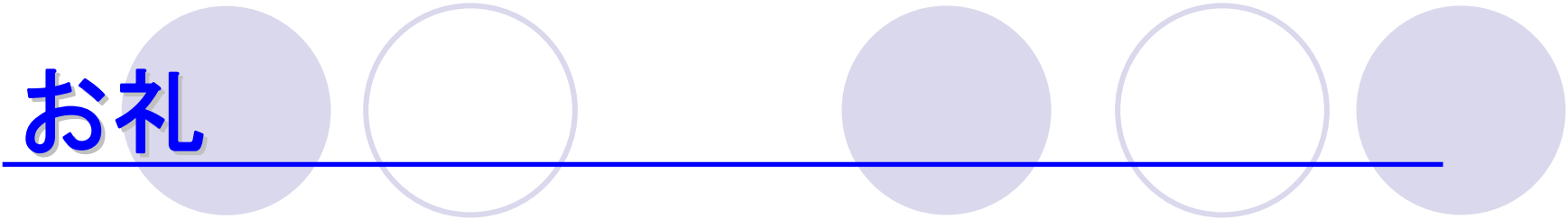
それらの施策も、もちろん大事であるが、

バス・鉄道の乗客増対策（クルマからの転換）こそ、CO2の削減につながるのではないか

交通事業者も、多様な主体と連携して、積極的にESTに取り組むべきと考える

最後に・





お礼

第1回EST交通環境大賞の大賞をいただき、また、このような報告の場を与えてくださり、大変ありがとうございました。

関係していただいた皆様に感謝するとともに、EST交通環境大賞が低炭素交通システムの実現に向けて、ますます発展していくことを祈念いたします。

ご清聴ありがとうございました。